

ウクライナ情勢に関する国連安保理ブリーフィング会合における
藤井比早之外務副大臣ステートメント
(2024年11月18日)

議長、

この会合を主催いただいたラミー英国外相に感謝いたします。また、ディカルロ国連事務次長による包括的なブリーフィングに感謝いたします。

ロシアが主権国家であるウクライナに対する侵略を開始してから1000日が経ちました。この1000日の間、自国を守るために戦ってきたウクライナの人々に、我々は深い敬意と揺るぎない連帯を表明します。

先週の土曜日、岩屋外務大臣がウクライナを訪問し、シビハ外務大臣に対し、ウクライナにおける公正かつ永続的な平和の実現に向け、ウクライナに協力していくという日本の意思を直接表明し、「ウクライナと共にある」との日本の姿勢は変わらない旨述べました。

議長、

我々は、この1週間でウクライナを襲った大規模かつ広範囲にわたるミサイル攻撃に衝撃を受けています。この攻撃により、罪のない市民が犠牲になっています。我々は、ロシアによる違法な侵略を、最も強い言葉で非難し続けます。重要な民間インフラを破壊する残忍な攻撃が続いていることに加え、ウクライナの領土内で想像を絶する人権侵害と虐待が発生しています。

繰り返します。ロシアは侵略を直ちに停止し、ウクライナから撤退し、国際的に認められた国境内におけるウクライナの独立、主権及び領土一体性を尊重しなければなりません。

議長、

ロシアは、自国の兵器だけでなく、北朝鮮から供給された兵器を用いてウクライナに対する侵略を続けており、ロシア自身が合意した関連安保決議に違反しています。明白な証拠があり、ここ安保理でごまかしは決して許されるべきではありません。

北朝鮮兵士がロシアに派遣され、現在ウクライナとの戦闘に参加しており、事態は新たな局面に入っています。ロシアによるウクライナに対するいわれのない侵略戦争へのこうした関与は、国連憲章を含む国際法の明白な違反です。

これに関連する北朝鮮によるロシアへの直接支援は、欧州とインド太平洋の平和と安全に深刻な影響を与える可能性があります。「今日のウクライナは明日の東アジアかもしれない」。我々は、不法で正当化も容認もできない露朝間の軍事協力を最も強い言葉で非難します。

また我々は、イランとロシアの軍事協力に対する深い懸念を改めて表明します。国際社会は、ロシアの侵略を直接にせよ、間接にせよ、支援することを控えるべきです。

議長、

平和のための外交と対話の重要性は議論の余地がありません。しかし、この戦争を起こしているのがウクライナでないことは明白です。ウクライナは、自らを守るために戦うことを余儀なくされたのです。いわれのない侵略戦争を開始したのはロシアです。ロシアが侵略を止め、国際的に認められた国境まで撤退すれば、戦争はすぐに終わります。

今必要なのは、ウクライナの主権と領土の一体性を無視した「平和」を求めることでもなければ、双方に等しく緊張緩和を求めることでもありません。それは単に侵略者を利するだけです。国連憲章の原則を堅持するか、無視するかが問われています。国連憲章に違反しているのが誰なのか、これ以上明確なことはありません。

我々は、法の支配に基づく国際秩序を堅持し、国際法違反を決して容認してはなりません。

日本は、国連憲章の目的と原則に基づくウクライナにおける包括的、公正かつ永続的な平和を実現するため、ウクライナや国際社会と共に、外交努力を継続します。

議長、

日本は、ウクライナの人々の生活や国全体の再建のため、長期的な努力を続けることを約束します。我々はこれまでに、対ウクライナ支援として、人道支援、復旧・復興、財政の分野において、総額120億ドル以上の支援を表明し、着実に実施してきました。我々は、エネルギー供給や地雷除去の分野を含む支援を継続していきます。

議長、

最後に、世界中のどこであれ、力による一方的な現状変更の試みを許してはならないことを我々は強調します。

日本は、平和と正義が実現するまで、断固としてウクライナと共にあります。

ありがとうございました。

(了)